

図書館だより

開館時間（共通）9：00～17：30
 中央図書館 ☎ 0558-76-5566
 葦山図書館 ☎ 055-949-8605
 URL <http://www.izunokuni.library-town.com/>

ピックアップ

一般



女神のサラダ
 瀧羽麻子／著
 光文社

心身ともに限界を迎えた会社員の沙帆は、違う環境でやり直したいと群馬の農場に転職するが…。表題作ほか全国各地を舞台に、農業に関わる女性の想いと悩みを描いた全8短編。【中央】

一般



できない男
 額賀滯／著
 集英社

恋愛も仕事も冴えない地方在住デザイナー・荘介と有能な裕紀。田舎町の農業テーマパークのコンペで出会った水と油のようなアラサー「できない男」二人の成長物語。【葦山】

6月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
	①	2	③	4	5	6
7	⑧	9	⑩	11	12	13
14	⑮	16	⑰	18	19	20
21	⑳	23	⑳	25	㉞	27
28	㉑	30				

○中央休館日 □葦山休館日
 ◇両館休館日

6月のおはなし会は、中止します。

○毎年6月に実施している中央図書館の特別整理休館はありません。

新着本コーナーから

- | | |
|---------------|-------------|
| 一般 天稟 | 幸田真音／著【中央】 |
| 一般 暴虎の牙 | 柚月裕子／著【中央】 |
| 一般 誘拐屋のエチケット | 横関大／著【中央】 |
| 一般 公安狼 | 笹本稜平／著【葦山】 |
| 一般 ダーク・ブルー | 真保裕一／著【葦山】 |
| 一般 アガワ家の危ない食卓 | 阿川佐和子／著【葦山】 |
| 一般 老いてこそ生き甲斐 | 石原慎太郎／著【中央】 |
| 児童 カラスは飼えるか | 松原始／著【葦山】 |

お知らせ

利用について、ご協力をお願いします。

- 体調の悪い方は、入館をご遠慮ください。
 - 入館の際は必ずマスクを着用してください。
 - 館内への長時間の滞在はご遠慮ください。
 - 返却のみの場合は、カウンター付近に設置した返却ボックスに入れてください。
- ※返却された資料は、表面の消毒を行っています。

活用してください！ 鳥獣被害防止対策事業費補助金

鳥獣の被害から農作物を守るために電気柵、防獣フェンス・ネットなどを農地に設置するための補助金です。
対象／市内在住で10a(1反)以上の市内農地を耕作している農家
補助額／資材費の購入に要した費用の2分の1以内(上限額10万円(千円未満切捨て))
申請／資材購入前に要相談(購入後の申請は対象外です)
 ※市HPから補助の概要が確認できます。
 ☎ 農業商工課 ☎ 0558-76-8003



文化財通信

その180

伊豆の国モノ語り ～モノが語る伊豆のクニの歴史～(全7回)

第1回 仲道A遺跡出土の縄文土器

文化財課 ☎ 055-948-1428

私たちの住む伊豆の国市は、多くの歴史資源に溢れたまちです。弥生時代の水田遺跡である山木遺跡、鎌倉幕府の執権として栄華を築いた北条氏の居館である北条氏邸跡(円成寺跡)、幕末期に異国の技術を基に鉄製大砲の製造を試みた葦山反射炉など、時代を超えて多くの歴史資源が存在しています。

今回は、そんな歴史資源の中から、伊豆の国市に人が定住するようになったことを示す資料である仲道A遺跡出土の縄文土器を紹介いたします。

仲道A遺跡は、三福公民館の位置する段丘上(標高30m)に築かれています。市内の東部の段丘上は、周辺に狩野川や深沢川などの豊富な水源が広がり、山が近く狩猟採集も容易なことから、縄文時代の集落遺跡が多く見つかっています。

遺跡からは、さまざまな土器



仲道A遺跡出土の縄文土器

が見つかっており、そのうち二点の土器が復元されています。この土器は側面に三本の縄の模様が施されており、地味に見えますが、実は縄文時代の草創期(約一万三千年前ごろ)に作られたものなのです。

一般的に我々のイメージする立体的な模様を持つ縄文土器である「火焔型土器」は縄文時代中期(約五千年前ごろ)に作られたものであり、仲道A遺跡の土器はそれよりも八千年も前に作られたものなのです。

この時期の土器は、日本列島で土器作りが始まった初期のものなので、国内でも鹿児島や静岡などの限られた地域でしか出土しない貴重なものです。これこそ、現在まで作られるやきもののはじまりを伝えるものと言えるでしょう。

この土器の発見によって、少なくとも一万三千年前に人々が伊豆の国に住み始めたことがわかりました。発見された当時、「県内最古の土器」として注目を浴び、専門家が



郷土資料館にて展示している大仁地区の縄文土器

だけでなく、多くの人々が注目しました。その興奮の状況は、昭和58年(1983)の新聞記事や、後の昭和61年(1986)に刊行された報告書から伺うことができます。

これらの復元土器2点を含む773点の土器は、その価値が認められて県の有形文化財(考古資料)に指定されています。現在は、伊豆の国市郷土資料館の入口に展示されており、県内最古級の土器として、訪れる人々の注目を集めています。